

「要介護高齢者に対する口腔ケアの効果に関する実証的研究」

— QOL に及ぼす影響について —

M031595 金久弥生

1. はじめに

世界に類を見ない速さで進行しているわが国の高齢化の波は、社会のさまざまなシステムに変化をもたらし、医療においては、その目標をQOL (Quality of life) へとシフトさせている。口腔ケアは、口腔とその関連器官の機能を正常に保ち、健康を守る総合的な取り組みであるが、口腔ケアと要介護高齢者のQOLに関連する研究はこれまでほとんど行われていない。

2. 研究の目的

痴呆高齢者に対する客観的QOL評価尺度であるAD-HRQL-J (Alzheimer's Disease Health Related Quality of Life Japan) およびDHC (Dementia Happy Check - Home Care Version -) を用い、口腔ケアが要介護高齢者のQOLに及ぼす影響および効果を検証し、その可能性を明らかにすることにある。

3. 対象者と調査期間

介護老人保健施設入所者81名(男性18名, 女性63名)を対象に、平成16年2月から平成16年8月の6ヶ月間介入調査を行った。

4. 評価方法

基本的属性、全身状況、口腔内状況、認知機能については調査開始前後に、日常生活自立度、QOLについては毎月評価を行った。

5. 手続き

対象者を口腔ケア群45名、従来どおりのケア群36名とに分類し、口腔ケア群には週1回歯科衛生士が歯科診療室にて専門的口腔ケアを行った。この際、同じ対象者に対して同じ歯科衛生士が期間を通じて対応し、QOL評価も行った。

6. 結果

6-1 基本的属性と全身状況

群分けに施設スタッフの意見を反映したこともあり、口腔ケア群に残存歯が多く、部分床義歯使用者など口腔清掃の困難な者が含まれたことは否めない。従来通りのケア群ではBarthel indexがほぼ維持されているのに対して、口腔ケア群では有意に低下していた。認知機能においては、口腔ケア群の得点が終了時に有意に高い傾向が認められた。

6-2 QOL に及ぼす影響

(1) 平均得点における両群間の比較

DHCでは「身だしなみへの関心」「立ち振る舞い」「活動の参加度」において、AD-HRQL-Jでは「活動の楽しみ」「周りとの関係」において、口腔ケア群の得点が有意に高かった。

(2) 口腔ケア群における得点の変化量

DHCの総得点は2ヶ月後に有意に向上したものの、それ以降に有意差は認められなかった。また、「会話

の様子」「身だしなみへの関心」「活動の参加度」の項目については、一時的であるが得点の向上が認められた。AD-HRQL-Jはいずれの項目においても有意差は認められなかった。

(3) 従来通りのケア群における得点の変化量

DHCの総得点は3ヶ月後に有意に低下し、以後継続していた。項目ごとにおいては、「活動の参加度」が有意に低下していた。AD-HRQL-Jでは有意差は認められなかった。

(4) 歯科衛生士による評価

両尺度とも、平均得点および変化量は有意に向上し、その効果は継続していた。

6-3 DHC と AD-HRQL-J との関係

DHCの「活動への参加度」とAD-HRQL-Jの「活動の楽しみ」のスコアについてみると、2ヶ月後および6ヶ月後に有意な相関が認められた。

6-4 ADL と QOL 評価との関係

口腔ケア群のBarthel Indexが低下した者においては、初回調査時よりすでにQOLが有意に低かったものの、変化量に違いは認められなかった。

6-5 口腔清掃状態と QOL 評価との関係

口腔清掃状態の、改善群におけるDHCは、2ヶ月後に得点が有意に上昇し、調査終了時には開始時とほぼ同じ値を示していた。不変群では期間を通じて徐々に得点は低下し、悪化群では4ヶ月後に有意に低下していた。改善群におけるAD-HRQL-Jは期間を通じて得点が上昇していたが、不変群では4ヶ月後に有意に低下し、また、悪化群では、2ヶ月後に有意に上昇したもののその後低下した。

7. 考察

今回の結果により、専門的口腔ケアが要介護高齢者のQOL向上に影響を及ぼす効果が一時的に認められたものの、調査期間を通じてこの効果は継続しなかった。とりわけ社会的活動に関する項目に変化が認められたことから、専門的な口腔ケアを受けることができるといった環境の変化が、QOLを向上させる効果を持つ可能性が考えられた。また、従来通りのケア群ではDHCの総得点が有意に低下していたことから、専門的口腔ケアがQOLを維持する効果を持つことが示唆された。

8. まとめ

本研究の結果、専門的口腔ケアが要介護高齢者のQOL向上および維持に影響を及ぼす可能性が示唆された。

9. 今後の課題

今後は施設数や対象者数を広げ、基礎疾患などを特定した形で比較検討を行うことにより、口腔ケアがQOLに及ぼす影響プロセスをより明確にする必要性があると考えられる。